

EMT981 再生系の再構成(19)

—ハイドンを聴く(10)—

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。
再生する CD はハイドンの室内楽と協奏曲です。

Camerata CMCD-28043

ハイドン ディヴェルティメント No.14~No.18

ウーンフィルハモニア弦楽三重奏団

SONY SRCR 1763

ハイドン カッサチオニ長調

ディヴェルティメント変ホ長調

ホルンと二つのオーボエのための協奏曲ニ長調

ディヴェルティメント変ホ長調

ディヴェルティメントニ長調

ラルキブツテリ

BERLIN CLASSICS 0300647BC

ハイドン Hornkonzerte Nr. 1 & 2

Felix Klieser

Württembergisches Kammerorchester Heilbronn

3. EMT981 の試聴結果

ハイドンのウーンフィルハモニア弦楽三重奏団によるディヴェルティメント No.14~No.18 は、穏やかで明るく浮き浮きするような室内楽で、艶のある音で楽しく聴けます。

ハイドンのラルキブツテリによるディヴェルティメント集は、ガット弦による弦楽四重奏を演奏するラルキブツテリが管楽器なども加えて演奏する室内楽です。ラル

キブツテリの透明度の高い弦楽アンサンブルに加えて、ナチュラルホルンが加わり、その柔らかく朗々となる響きが魅力的です。

ハイドンの **Hornkonzerte Nr. 1 & 2** は、コンサートに行って求めてきたものです。**Felix Klieser** は、両手を事故で失ったものの、足でホルンのピストンを操作して演奏します。全体に明るく伸び伸びとした演奏で、ハンディを感じさせない演奏で、コンサートの印象が蘇ってきます。

4. まとめ

クロック入力した **EMT981** からのバランス接続の効果で、三つの盤ともデジタル臭さを感じさせない明るく艶やかな音が楽しめます。

以上